
令和4年度 事業報告書・概要版
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)



令和5年6月
地方独立行政法人 神戸市民病院機構

市民病院機構・各病院位置図



※ 本文のグラフや表における「H」は平成、「R」は令和の元号を表します

神戸市民病院機構について

◆神戸市民病院機構の目的

- ✓ 地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的とする。

◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人 神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目2番地
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	13名（令和5年3月31日時点）
職員数	3,501名（令和5年3月31日時点）

◆役員名簿

（令和5年3月31日時点）

役職		氏名	備考
理事長	常勤	橋本 信夫	
理事	常勤	木原 康樹	中央市民病院長
理事	常勤	有井 滋樹	西市民病院長
理事	常勤	京極 高久	西神戸医療センター院長
理事	常勤	栗本 康夫	神戸アイセンター病院長
理事	常勤	小倉 修弘	法人本部長
理事	非常勤	植村 武雄	小泉製麻株式会社社長・神戸商工会議所副会頭
理事	非常勤	千原 和夫	兵庫県立加古川医療センター 名誉院長
理事	非常勤	小西 郁生	京都医療センター名誉院長
理事	非常勤	南 裕子	神戸市看護大学長
理事	非常勤	村上 雅義	神戸医療産業都市推進機構専務理事
監事	非常勤	藤原 正廣	弁護士（京町法律事務所）
監事	非常勤	岡村 修	公認会計士・税理士 （岡村修公認会計士税理士事務所）

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：768床

一般病床：750床（うち、ICU・CCU：22床/SCU：12床/HCU：28床）

感染症：10床 MPU：8床

- ✓ 救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れる。
- ✓ 地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組みとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行う。



地域医療支援病院

救命救急センター指定病院

病院機能評価認定施設

災害拠点病院

地域がん診療連携拠点病院

第一種感染症指定医療機関

総合周産期母子医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。

◆基本方針

- ① 患者の生命の尊厳と人権を尊重する
- ② 十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
- ③ 基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組む
- ④ 24時間体制での救急医療を実践する
- ⑤ 医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
- ⑥ 地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

◆診療科（令和5年3月31日時点）

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科・新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：358床

一般病床：358床（うち、HCU：7床）

- ✓ 市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行う。
- ✓ 地域医療支援病院として、専門性の高い医療を提供するとともに、急性期中核病院として近隣の医療・介護機関と緊密な連携のもと、在宅医療を支援する。



地域医療支援病院

病院機能評価認定施設

がん診療連携拠点病院に準じる病院

認知症疾患医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

◆基本方針

- ① 患者さんの人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ② 医療安全体制の充実を図り、患者さん及び職員の安全確保に努めます。
- ③ 救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④ 高度・専門医療を充実させ、市民病院として地域医療に貢献します。
- ⑤ 地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥ 医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦ 職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

◆診療科（令和5年3月31日時点）

消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

神戸市立西神戸医療センター

◆病院の特徴と役割

病床数：470床

一般病床：425床（うち、ICU・CCU：10床）

結核病床：45床

- ✓ 神戸西地域（西区・垂水区・須磨区）に根づいた安心・安全な医療をめざすことを理念とし、神戸西地域の中核病院として、救急医療、高度専門医療、結核医療を安定的・持続的に提供する。
- ✓ 地域連携を促進し、地域完結型医療を目指す。

地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

地域がん診療
連携拠点病院

結核指定
医療機関



◆基本理念

神戸西地域
に根づいた
安心・安全な
医療をめざし
ます

◆基本方針

- ① 急性期病院として、マンパワーや設備のさらなる強化に努め、救急医療や高度専門医療を充実させることで地域住民の期待に応えます
- ② 市民病院として、結核医療や災害時の医療に対応します
- ③ 地域の中核病院として、地域連携を促進し、地域完結型医療をめざします
- ④ 市民の生命と健康を守るため、市民病院間相互の協力連携を推進します
- ⑤ 患者さんを中心としたチーム医療を行うとともに、患者さんや家族に対して誠実な態度で接します
- ⑥ 患者さんが納得できるわかりやすい説明を心がけ、患者さんや家族の自己決定権を尊重します
- ⑦ 職員が相互に協力し合い、常に改善を心がけ、医療水準・職場環境・経営体制すべてにおいてさらに誇れる病院を確立します

◆診療科（令和5年3月31日時点）

救急科、総合内科、脳神経内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神・神経科、小児科、外科・消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

神戸市立神戸アイセンター病院

◆病院の特徴と役割

病床数：30床

一般病床：30床（眼科）

- ✓ 眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から最先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供する。
- ✓ 眼疾患に係る臨床研究及び治験推進の臨床基盤としての役割を果たす。

国家戦略特区指定



◆基本理念

神戸市立神戸アイセンター病院は、市民のそして当院を受診する全ての患者さんの眼の健康を守るため、眼科中核病院として標準医療から高度先進医療まで提供するとともに、眼に関するワンストップセンターの核として患者さんの思いを繋げる役割を果たします。

◆基本方針

- ① 安全で質の高い医療を提供し、失明の防止とQOV（見え方の質）の向上につなげます
- ② 世界最先端の高度医療を取り入れ、地域社会・医療機関につなげます
- ③ 医療を通じて、医学研究から生活支援までつなげます
- ④ 患者さんの思いを理解し、希望につなげます
- ⑤ 職種間の一体感を持ち、人が育ち働きがいある職場づくりにつなげます
- ⑥ 職員一人ひとりが経営感覚をもち、健全な病院運営につなげます
- ⑦ そして、未来につなげます

決算概要

◆◆法人全体◆◆

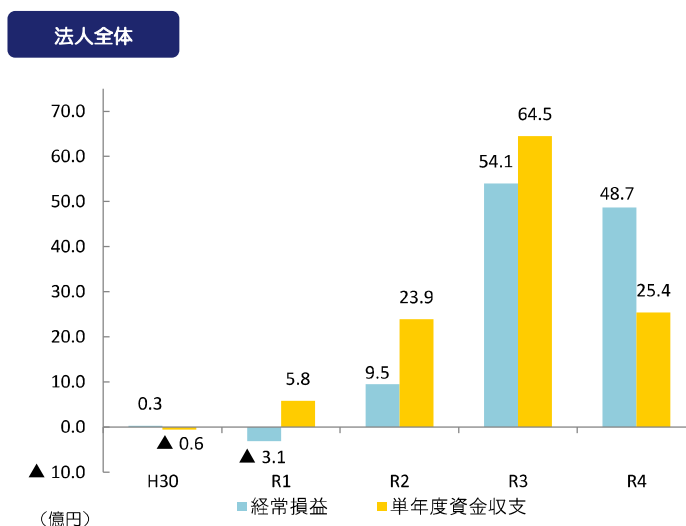
令和4年度は、市民病院機構の全職員が一丸となって、引き続き、神戸市の新型コロナウイルス感染症対応の中核的な役割を担うとともに、救急医療・高度医療との両立を図りました。

同感染症患者受入れのための病床確保や看護体制確保のための一部病棟閉鎖、手術の延期等により診療機能の制限は生じましたが、救急医療・高度医療等のより安定的な提供に努めたことで医業収支は対前年度比で3.6億円の改善となりました。これらに加え、国・神戸市の病床確保や医療物資購入に対する支援事業が継続されたことにより、引き続き補助収入等（100億円）を確保できました。

また、世界情勢を背景としたエネルギー価格の高騰など、病院を取り巻く厳しい環境においても市民の命と健康を守る役割を果たしていくために、引き続き、経営改善や医療スタッフの働き方改革に取り組んだほか、新興感染症対策、医療DXの推進などの患者サービス・医療機能の向上に繋がる事業への投資を計画的に実施しました。

これらの結果、令和4年度は機構全体で経常損益、当期純損益は48億円の黒字、単年度資金収支は25億円の黒字となりました。

グラフ1：経常損益・単年度資金収支の推移（法人全体）



◆◆病院別◆◆

① 中央市民病院

新型コロナウイルス感染症の重症患者を受入れるとともに、救急医療・高度医療の提供との両立を図った結果、患者数は増（対前年度比 入院：＋8.5%、外来：＋4.6%）、医業収益も増加しました。加えて、同感染症の補助収入を確保（62億円）できたこともあり、経常黒字となりました。

② 西市民病院

新型コロナウイルス感染症対応に伴う一定の診療制限はあったものの、効率的な病床運営に努めた結果、受入れ患者は増加（対前年度比 入院：＋7.1%、外来：＋6.0%）し、さらに入院・外来ともに単価も上昇し、医業収益は増加しました。加えて、同感染症の補助収入を確保（約20億円）できたこともあり、経常黒字となりました。

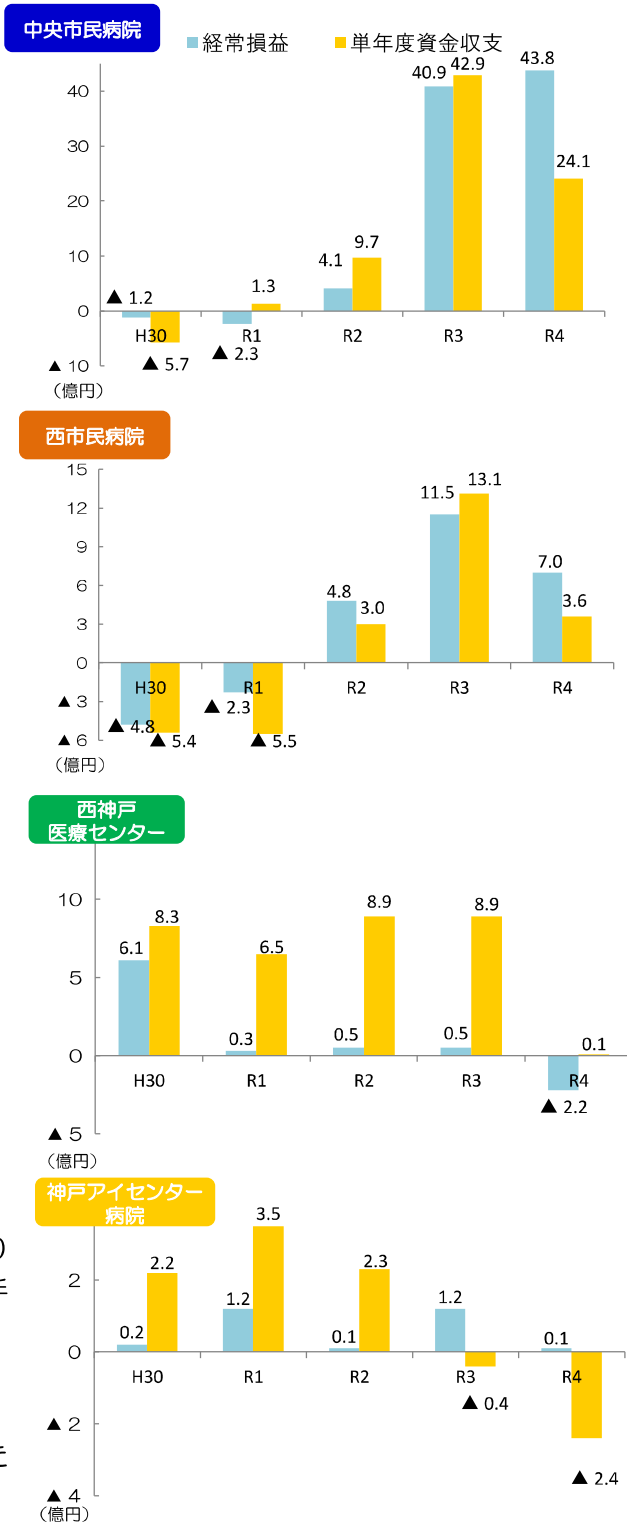
③ 西神戸医療センター

新型コロナウイルス感染症対応に伴う一般病棟の受入れ制限等により入院患者数は減（対前年度比 入院：▲3.0%、外来：＋0.4%）しましたが、新たな加算取得等により医業収益は増加しました。一方で、エネルギー価格の高騰に伴う光熱水費の増や設備投資に伴う減価償却費が大きな負担となり、経常赤字となりました。

④ 神戸アイセンター病院

入院収益は診療報酬のマイナス改定の影響により減となったものの、手術枠の効率利用による外来手術件数の増加や、硝子体注射枠の増加に取り組み、外来収益は増となりました（患者数対前年度比 入院：▲8.8%、外来：＋6.6%）。エネルギー価格の高騰に伴う光熱水費の増などで費用も増えましたが、経常黒字を確保しました。

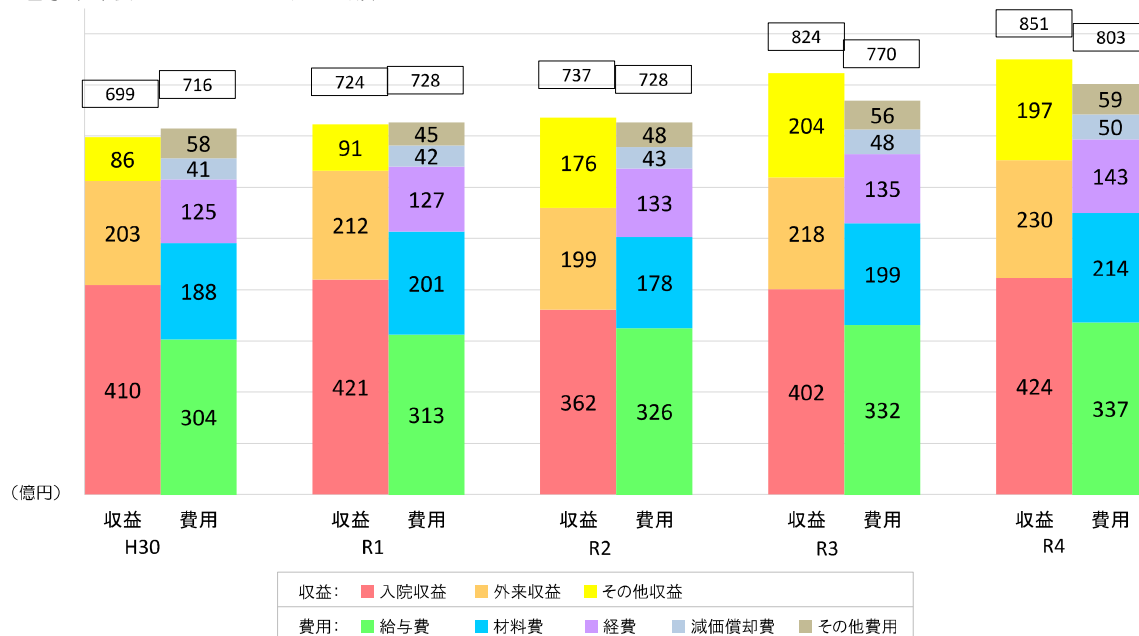
グラフ2：経常損益・単年度資金収支の推移（病院別）



◆◆財務諸表の概要◆◆

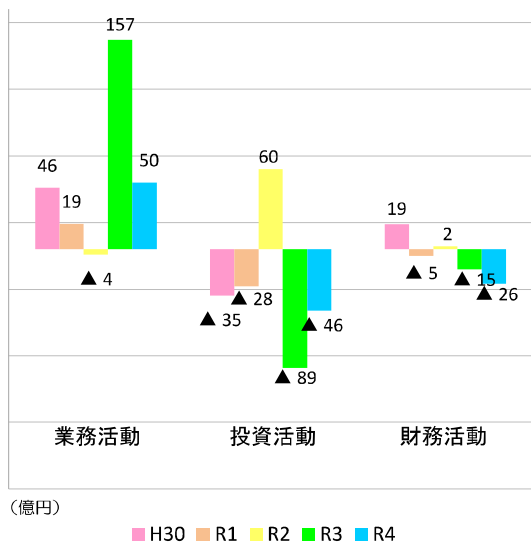
グラフ3：損益計算書

各事業年度における法人の経営成績



グラフ4：キャッシュ・フロー計算書

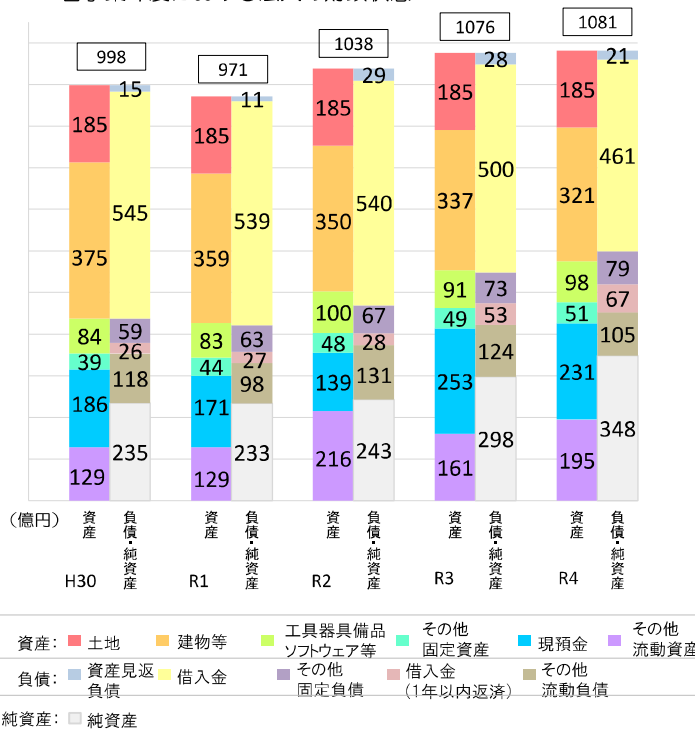
各事業年度の現金及び預金の増減を活動区別に表示



- 令和4年度末の現金及び預金残高は231億円となっています。

グラフ5：貸借対照表

各事業年度における法人の財政状態



新型コロナウイルス感染症への対応

1. 診療体制・医療機能

中央市民病院は市内で唯一の新型コロナウイルス感染症重症等特定病院^{*}として、令和2年11月に運用開始した臨時病棟を活用しながら、重症・中等症患者を中心に受入れ、西市民病院・西神戸医療センターでは、発生状況に応じ専用病棟を設置し、軽症・中等症患者の受入れを行いました。アイセンター病院では、陰圧化が可能な個室・手術室の確保等を行い、新型コロナウイルス感染症患者の眼科緊急手術に対応しました（写真1、表1）。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・臨時病棟や専用病床を活用した新型コロナウイルス感染症患者の受入れ
- ・発症予防を目的とした中和抗体薬投与の開始（中央）
- ・救急外来に、感染症対応の陰圧診察室を整備（西神戸）
- ・神戸市コロナ後遺症相談ダイヤルからの紹介等による診察を継続（中央・西・西神戸）
- ・ワクチン大規模接種会場等への出務を継続（中央・西・西神戸・アイ）



写真1 治療の様子

表1：入院患者の状況

令和5年3月31日 時点

病院	コロナ受入病床 最大確保時	入院患者総数		退院等（死亡）		退院等（治癒等）	
		累計	(R4年度)	累計	(R4年度)	累計	(R4年度)
中央	46床	2,336人	(968人)	228人	(74人)	2,108人	(924人)
西	43床	1,100人	(298人)	135人	(33人)	912人	(221人)
西神戸	45床	1,465人	(469人)	85人	(20人)	1,374人	(455人)
計	134床	4,901人	(1,735人)	448人	(127人)	4,394人	(1,600人)

※3病院の入院患者総数には、市外受入患者及び他院から転院した患者を含む。

※参考：神戸市の入院患者総数累計17,144人（R4年度8,225人）

2. 地域との連携・情報発信、多くのご支援

新型コロナウイルス感染症対応の経験や取り組みを伝えるため、ICT合同カンファレンス等を通じて、地域の医療従事者への情報提供を行いました。

また、市民の皆さんや「こうべ医療者応援ファンド」から引き続き多くのご支援をいただきました。

<新型コロナウイルス感染症重症等特定病院>

- 兵庫県の定める新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針のなかで規定される医療機関。重症者対策を推進することとされ、兵庫県内では神戸市立医療センター中央市民病院のほかに県立尼崎総合医療センターが指定されている。

神戸市立医療センター中央市民病院

1. 中央市民病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮

新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行いながらも、院内全体の病床運営の効率化に努め、救急医療の提供を継続し、救急外来患者数、救急入院患者数、救急車搬送受入数は全て前年度を上回りました（グラフ6）。

また、厚生労働省より発表された「全国救命救急センター評価※」において、9年連続で1位に選ばれました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・全国救命救急センター評価9年連続1位（写真2）
（評価対象となる全45項目すべてにおいて満点を獲得）
- ・各種ホットライン※を継続

(2) メディカルクラスター※との連携による先進的ながん治療等の提供

メディカルクラスターの中核病院として、高度専門病院との病病連携を継続しました（グラフ7）。

がん治療については、手術支援ロボットによる身体への負担が少ない手術や化学療法による治療、がんゲノム医療等も活用し治療を行いました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・国内で初めて開発された手術支援ロボットhinotoriを導入（写真3）
- ・キムリア®やブレアンジ®など、難治性のがん治療CAR-T細胞療法※の実施
- ・がん診療連携オープンカンファレンスの対面開催

グラフ6：救急患者数の推移（人）

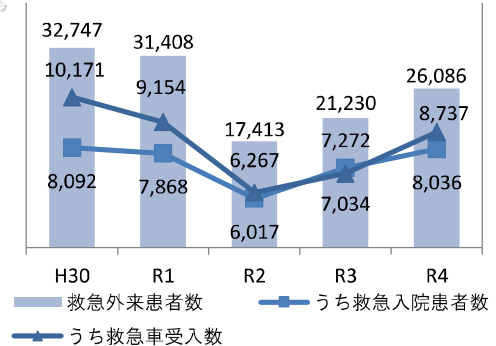


写真2 全国救命救急センター評価

グラフ7：中央市民病院の周辺医療機関との連携件数の推移（件）

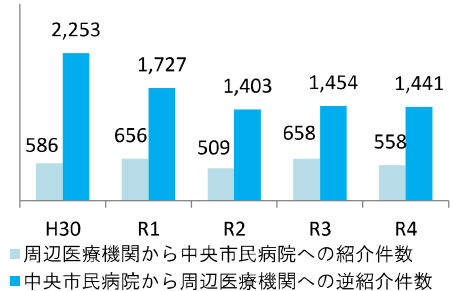


写真3 手術支援ロボットhinotori

<全国救命救急センター評価>

厚生労働省において平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されている。診療体制や患者受入れ実績等に関する報告に基づき点数化される。

<ホットライン>

地域医療機関からの受入れ要請や相談に対応する為の専用電話回線で、救急受付を通さずに直接診療科の担当医師に繋がる。現在、脳卒中、胸痛、産科、小児科、心臓血管外科（令和4年度まで）のホットラインを設置している。

<メディカルクラスター>

神戸医療産業都市において高度医療や専門医療を提供する医療機関群のこと。中央市民病院は、その中心的役割を担っている。

<CAR-T細胞療法>

白血病やリンパ腫の一部に対する新たな治療法。白血球の一種であるT細胞を遺伝子導入により改変し、患者に投与することで、患者自身の免疫システムを利用してがんを攻撃する治療法。

(3) 神戸医療産業都市の中核機関として 治験・臨床研究の更なる推進

医師主導治験や特定臨床研究※の支援体制の強化を図り、治験・臨床研究を推進しました（グラフ8）（表2）。

また、医療現場でのニーズをもとに医療機器等の開発に向けた企業との共同研究に取り組みました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・eラーニングや動画配信システム等を活用した研究倫理教育における環境を継続
- ・品質管理部門※による管理機能の強化
- ・医療イノベーション推進センター（TRI）の生物統計家チームとの包括契約による統計相談を開始

グラフ8：治験・臨床研究件数の推移（件）

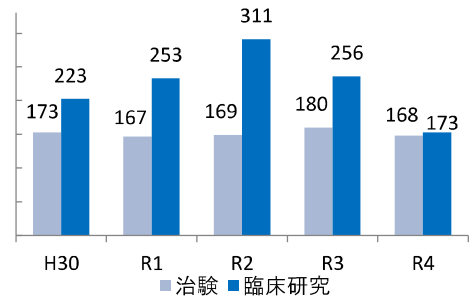


表2：特定臨床研究・医師主導治験実施件数（件）

項目	R2	R3	R4
特定臨床研究	86	84	86
うち当院が研究責任者	8	7	3
医師主導治験	13	13	12
うち当院が研究責任者	3	1	1

(4) 県立こども病院等と連携した高度な 小児・周産期医療の提供

総合周産期母子医療センター※として、各診療科と協力し、産科合併症や合併症妊娠等のハイリスク妊娠・出産への対応を行うとともに、胎児に異常がある場合は、胎児超音波検査等の最新医療技術を活用して対応するなど、安定した小児・周産期医療を提供しました（グラフ9）（写真4）。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・県立こども病院との相互補完の連携体制を継続
- ・連携登録施設（産科・産婦人科42施設、小児科103施設）との情報共有
- ・産科ホットライン、小児科ホットラインの継続

グラフ9：ハイリスク妊娠及びハイリスク分娩件数（件）

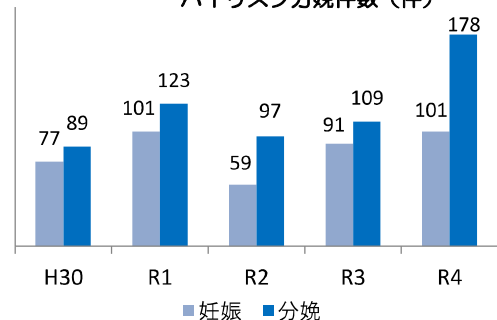


写真4 胎児超音波検査の様子

<特定臨床研究>

- ▶ 治験・臨床研究実施基準遵守義務により質が担保された臨床研究のうち、「未承認あるいは適応外の医薬品等を使うもの」「製薬会社等から資金提供を受けるもの」のいずれかに該当する研究。

<品質管理部門>

- ▶ 各種法令指針に基づいて研究者が実施した臨床研究を病院として適正に管理することで、臨床研究に参加された患者の保護や信頼性のある研究に努め、臨床研究の質を確保するための部門。

<総合周産期母子医療センター>

- ▶ 新生児集中治療管理室（NICU）や母体・胎児集中治療簡易室（MFICU）を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応可能な医療機関。

(5) 第一種感染症指定医療機関※としての役割の発揮

市内唯一の第一種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、市、県及び地域医療機関と連携を図り、速やかに患者を受入れられる体制を整備し、市民の安全確保に取り組みました。

※新型コロナウイルス感染症への対応は別項目（P7）

◆令和4年度の主な取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症への対応（写真5・6）
- ・市内医療機関とのメーリングリストによる情報共有や訪問指導等、行政・地域医療機関と連携を強化
- ・エムボックス（サル痘）流行に伴い、患者の受入れ準備及びマニュアルの整備



写真5 新型コロナウイルス感染症患者対応の様子



写真6 感染症対策

2. 共通の役割

(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

eラーニングを用いた医療安全研修の開催、各種医療安全マニュアルの改定や院内ネットワークへの掲載など、患者が安心・安全に医療を受けることができるよう取り組みました（写真7）。

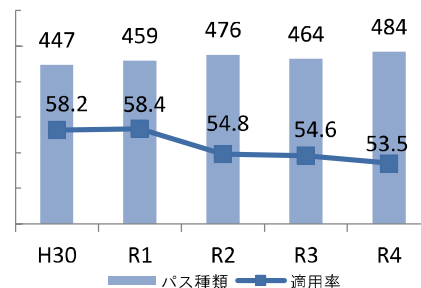
◆令和4年度の主な取り組み

- ・所見見落とし防止対策強化のため、報告書確認対策チーム会を設置
- ・RRS※関連マニュアルの見直しや、南館再開に伴うシミュレーションを実施
- ・クリニカルパス※大会では、開催以来初めて、医師以外の職種（薬剤師）による診療科横断的な支援に関する演題を発表（グラフ10）



写真7 eラーニングでの医療安全研修

グラフ10：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<第一種感染症指定医療機関>

- 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律で定められた一類感染症、二類感染症又は新型インフルエンザ等感染症の患者の入院を担当させる医療機関として都道府県知事が指定した病院。

<RRS>

- RRS=Rapid Response System（院内迅速対応システム）患者が急変する前に多くみられる「前兆」の段階から早期介入することで、入院中の予期せぬ心停止や重篤有害事象を防ぐことを目的とする院内迅速対応システムの一つ。
- 平成24年に発足して以来、患者の安全管理のみならず医療スタッフ教育、チーム医療の向上に重要な役割を果たしている。

<クリニカルパス>

- 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覽にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

患者満足度調査（グラフ11）による患者ニーズを把握するとともに、医療費後払いシステムや予約変更のWeb申込を活用し、待ち時間等の混雑緩和に努めました。

また、周術期サポートチームやがん専門看護師による相談について対象科を広げる等、体系的な患者総合支援体制の構築に取り組んだほか、南館でのリハビリテーションを開始しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・新型コロナウイルス感染症患者対応や面会制限に伴い、入院患者へのWEB面会を継続
- ・神戸駅からの無料貸切バスを、三宮駅からも乗車可能な無料路線バスへ変更※（診察券等提示により無料）（写真8）

グラフ11：患者満足度調査（とても満足、やや満足の割合）の推移（%）

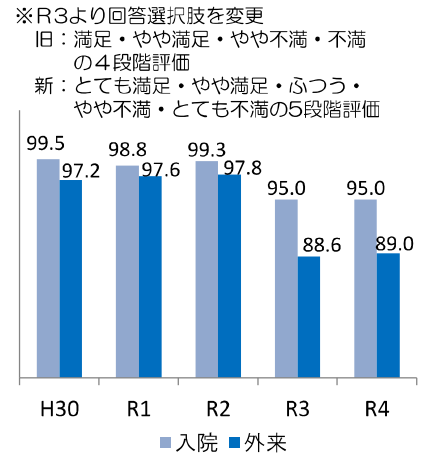


写真8 無料路線バス

(3) 市民への情報発信

患者向け広報誌の「しおかぜ通信」（写真9）のほか、ホームページ、動画チャンネル、医療推進マガジン等、様々な手法を用いて、病院での取り組みや治療に関する情報を患者や市民へ分かりやすく発信しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・西神戸医療センターと共催でがん市民フォーラムを開催
- ・兵庫県脳卒中市民公開講座の開催（後援）
- ・NHKの「100カメ」をはじめとした、各種マスコミからの取材の受入れ（写真10）



写真9 患者向け広報誌「しおかぜ通信」



写真10 取材への対応

＜無料バスの運行＞

- ▶ ボートライナーの混雑緩和策の一つとして、神戸市と神戸市民病院機構が主体となり、中央市民病院・神戸アイセンター病院の利用者を対象に、平日朝ラッシュ時における路線バス（神姫バス）の無料運行を社会実験として実施している。

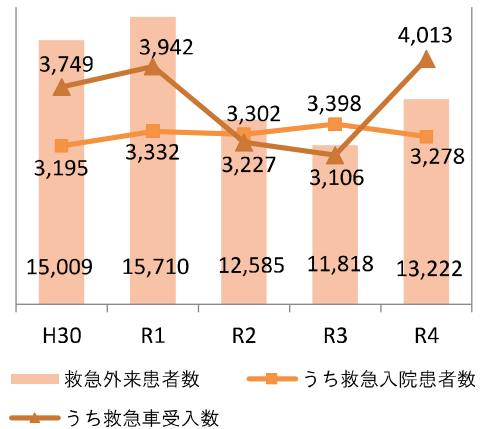
神戸市立医療センター西市民病院

1. 西市民病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 地域の患者を24時間受け入れる救急医療の提供

新型コロナウイルスの発生状況に応じた病床運用のもと感染患者の受入れを行うとともに、令和2年度に拡張した救急外来の活用や、救急受入れ状況の把握・分析等を行い、**救急外来患者数及び救急車受入数が大幅に増加**しました（グラフ12）。

グラフ12：救急患者数の推移（人）



◆令和4年度の主な取り組み

- ・自宅からの電子カルテ参照機能を活用した専門医への相談体制を継続
- ・救急診療マニュアルや、救急応需時に即座に確認できるポケットマニュアルの改訂
- ・長田消防・兵庫消防との救急受入れに関する意見交換会を開催（写真11）



写真11 消防との意見交換会

(2) 地域のハイリスク出産に対応できる周産期医療の提供

市街地西部唯一の周産期対応総合病院として、正常分娩だけでなく基礎疾患等をもつ妊産婦のほか、新型コロナウイルス感染症陽性の妊婦などリスクの高い分娩に対応するとともに、助産師外来の継続や産科特設サイトを通じた情報発信等を行い、安定的な周産期医療を提供しました。



写真12 NIPTのカウンセリングの様子

◆令和4年度の主な取り組み

- ・NIPT*受入れ病院として認定を受け、他院受診中の妊婦にも対応できるようインターネット予約を通じた非侵襲性出生前遺伝学的検査を開始（写真12）
- ・各種教室（ほのぼのの教室、両親教室）の再開(写真13)



写真13 各種教室再開のお知らせ

<NIPT>

➤ NIPTとは“非侵襲的出生前遺伝学的検査”のことで、胎児の染色体疾患の有無を検査する出生前検査法。

(3) 地域需要に対応した小児医療の提供

長田区で唯一の小児二次救急輪番体制※を維持し、地域における安定的な小児救急医療の提供に努め、救急患者数が増加しました（グラフ13）。

また、多職種による協力のもと、アレルギーをはじめとした小児疾患への対応を行うとともに、講演会や広報紙を通して地域医療機関への情報発信を行いました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・施設での災害時の備蓄をテーマに「アレルギー児に対する地域連携の会」を実施（写真14）
- ・病児保育室の運営継続による地域の子育て支援への寄与（写真15）



写真15 病児保育室

(4) 認知症患者に対する専門医療の提供

認知症鑑別診断※（グラフ14）や介護生活相談を継続するとともに、認知症への理解を深めるための啓発活動等、市の政策である「認知症の人にやさしいまちづくり」の推進に寄与しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・動画配信や独自で作成したパンフレットを用いた啓発活動
- ・医療介護者向けの多職種事例検討会や医師会等との研修会を開催
- ・「認知症へのそなえ」をテーマにした市民公開講座を開催（写真16）

グラフ13：小児救急患者数（人）

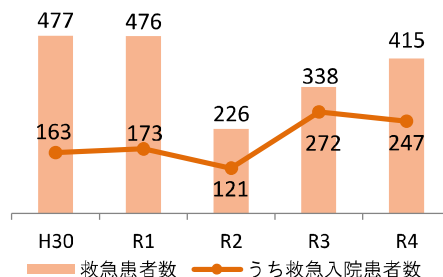


写真14 小児アレルギー講習会

グラフ14：認知症鑑別診断件数の推移（件）

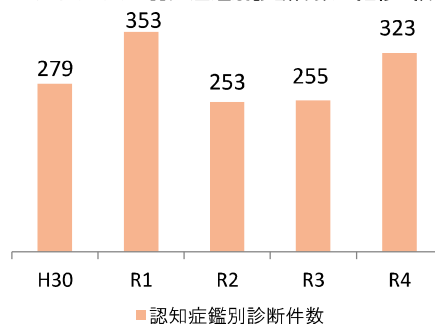


写真16 市民公開講座

<病院群輪番制>

- 神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。小児救急医療のほか、内科系、外科系、脳疾患、循環器疾患、整形外科、消化器外科などがある。

<認知症鑑別診断>

- CT、MRI、脳血流検査等の画像検査、記憶・知能等に関する心理検査等を行い、認知症の種類や状態を正確に把握すること。

(5) 生活習慣病患者の重症化予防に向けた取り組み

糖尿病地域連携パス（グラフ15）やワンタイム連携※の運用による地域医療機関との連携のほか、管理栄養士による栄養指導等、院内多職種によるサポートのもと、生活習慣病の早期治療や重症化予防に取り組みました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・地域の事業所で出張糖尿病チェックを実施し、予防のための啓発活動や受診推奨を実施（写真17）
- ・動画配信やホームページを通じて糖尿病に関する情報を発信（写真18）

グラフ15：糖尿病地域連携パス連携症例数の推移（件）

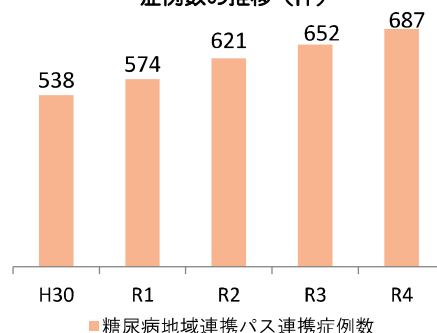


写真17 出張糖尿病チェックの様子

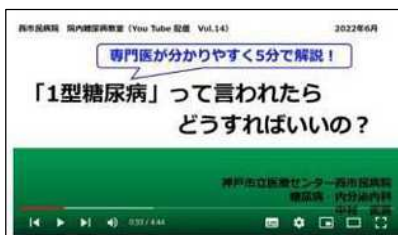
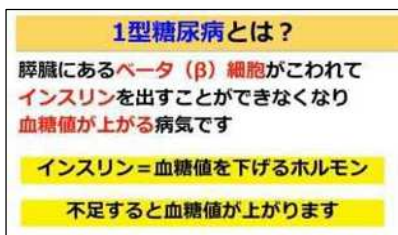


写真18 動画配信による糖尿病教室



2. 共通の役割

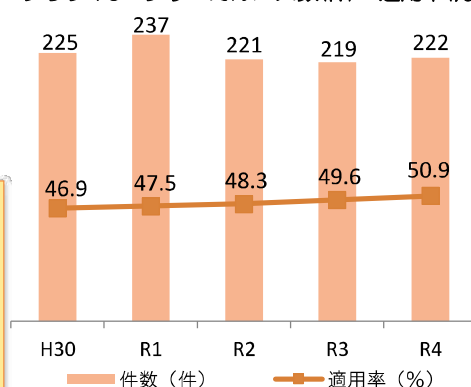
(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

週1回医療安全管理室によるミーティングを実施し、インシデント報告等に関する分析及び情報共有を行い、再発防止に努めました。医療安全教育については、eラーニングを用いた研修を実施し、医療安全意識の醸成に努めました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・中央市民病院、アイセンター病院と相互評価を実施
- ・クリニカルパス※委員会やニュースレターを活用し、パス適用率向上の働きかけを行い、適用率が目標値（50.0%）を達成（グラフ16）

グラフ16：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<ワンタイム連携>

- 地域の医療機関からのニーズが多い「糖尿病薬物療法の選択」および「栄養相談実施」を、病院への一度の紹介受診のみで実施する取り組み。

<クリニカルパス>

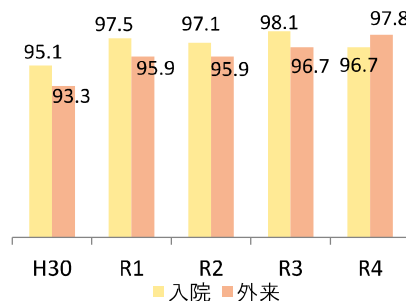
- 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

来院者の不安や質問にきめ細かく対応するため、フロアマネージャー等の配置による総合案内機能の充実を継続しました。

また、退院時アンケートや患者満足度調査を通し、患者ニーズの把握に努め、必要な改善を行いました（グラフ17）。

グラフ17：患者満足度調査（非常に良い、良いの割合）の推移（%）



◆令和4年度の主な取り組み

- ・患者用無料Wi-Fiサービスを開始（写真19）
- ・医療費後払いシステムの導入やFAX予約等の推進による待ち時間等の混雑を緩和
- ・入院患者さんへのメッセージを記した専用カードをベッドまでお届けする「お見舞いカード」サービスの開始（写真20）



写真19 無料Wi-Fiのご案内

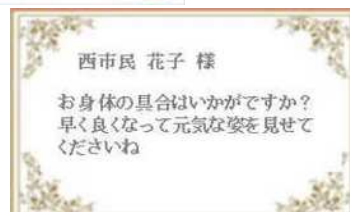


写真20 お見舞いカード（イメージ）

(3) 市民への情報発信

市民向け広報誌「虹のはし」（写真21）や令和3年度にリニューアルしたホームページを活用し、医療情報、医療スタッフの役割や新しい取り組みについて、分かりやすく情報を発信しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・患者向け教室（小児アレルギー、糖尿病、市民公開講座）の開催や積極的な動画配信（10テーマ・視聴総数37,316回）を行い、市民の健康づくりに向けた情報を提供（写真22）



写真21 患者向け広報誌「虹のはし」



写真22 糖尿病教室

神戸市立西神戸医療センター

1. 西神戸医療センターの役割を踏まえた医療の提供

(1) 地域の医療機関と連携した24時間体制での救急医療の提供

新型コロナウイルス感染症患者の受入れに伴う救急医療体制の制限を最小限に留めるとともに、救急受入れ状況の把握・分析等を行い、救急外来患者数及び救急車受入数が増加しました（グラフ18）。

また、西消防署との意見交換会の実施・地域病院研修の受入れ等による救急隊との連携強化や、各種ホットラインを継続しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 迅速な初療診断に必要なCT室の整備や、感染症対応が可能な診察室の増室により、救急外来機能を強化（写真23）

グラフ18：救急患者数の推移（人）

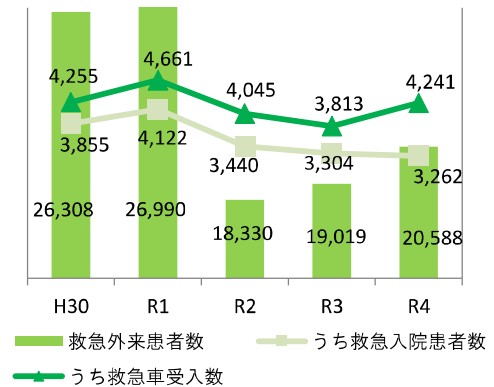


写真23 改修した救急外来

(2) 地域における小児救急・小児医療の拠点機能の提供

新型コロナウイルス感染症蔓延期においても、連日の小児救急外来を継続するとともに、小児二次救急輪番※を担当し、市街の周辺地域も含めた安定的な小児救急医療の提供に努めました。

小児救急患者数も増加し、救急外来の受入れ時間内に要請のあった救急車は昨年度に続き概ね100%受入れました（グラフ19）。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ ファミリーサポートチーム（FST）を立ち上げ、虐待患者の養育支援および保護体制を強化（写真24）

グラフ19：小児（15歳以下）救急患者数の推移（人）

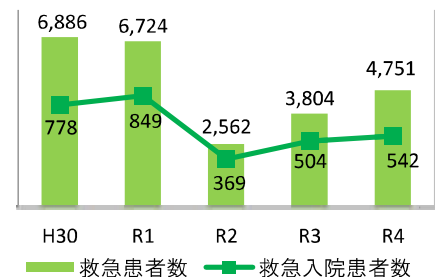


写真24 FSTカンファレンス

<病院群輪番制>

- 神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。西神戸医療センターでは、毎週土曜日と第2、第3水曜日を担当。
- 小児救急医療のほか、内科系、外科系、脳疾患、循環器疾患、整形外科、消化器外科などがある。

(3) 地域周産期母子医療センター機能の提供

合併症妊娠や切迫早産等のハイリスク妊娠・ハイリスク分娩（全分娩の約40%）や32週以降の母体搬送を受入れるとともに、新型コロナウイルス感染症妊婦を受入れる等、周辺地域の需要に応じた質の高い周産期医療の提供を継続しました。



写真25 産後2週間健診

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 出産早期の育児不安の解消を図るための産後2週間健診を継続（写真25）
- ・ ㈱ファミリアのサポートクリニック※として、オリジナル肌着一体型ベビー服の活用や、出産の思い出づくりのためのフォトブースの設置を継続（写真26）



写真26 オリジナル肌着一体型ベビー服とフォトブース

(4) 幅広いがん患者への支援と集学的治療の提供

手術支援ロボット（ダヴィンチ）による手術やリニアックによる放射線治療等、身体への負担の少ない高度専門医療を提供するとともに、令和3年4月に設置した「緩和ケアセンター」において患者支援や情報提供の充実を図る等、国指定の地域がん診療連携拠点病院として総合的ながん診療を実施しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 国指定地域がん診療連携拠点病院の指定更新（令和5年度から4年間）（写真27）
- ・ 曝露対策ガイドラインに従って、患者本人をはじめ家族への曝露対策の指導を強化（写真28）
- ・ がん相談支援センターによるがん患者の就労支援や社会保険労務士による相談会を継続
- ・ 薬剤師による抗がん剤治療に関する副作用説明や、治療に伴う栄養指導の継続（写真29）



写真27 地域がん診療連携拠点病院指定書



写真28 曝露対策に関するチラシ



写真29 栄養指導

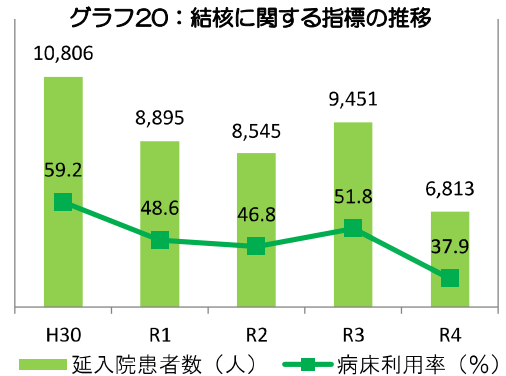
<サポートクリニック>

- ファミリアでは、妊娠してから出産までの約270日と、赤ちゃんが生まれてから2歳の誕生日を迎えるまでの730日を合わせた1000日をサポートする取り組みを行っている（令和4年3月現在、全国で51の施設と連携）

(5) 結核医療の中核機能の提供

市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者の専用病棟、結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し、多職種介入協力のもと引き続き総合的な結核医療を安定的に提供しました（グラフ20）。

また、他の感染症を合併している患者等を隔離するため、個室化工事の検討を開始しました（令和5年4月工事着工、同年8月より使用開始予定）。



2. 共通の役割

(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全推進室を中心に、週1回ミーティングを行い、インシデントやアクシデントに関する迅速な情報収集及び分析を実施しました。実際のインシデント等への対策として注意喚起文やレターを適宜発行するとともに、関連事項について研修内容に盛り込む等、職員への啓発を図りました。



写真30 病院機能評価 認定証

◆令和4年度主な取り組み

- ・ 日本医療機能評価機構による病院機能評価*の更新審査を受審し、認定病院を取得（令和5年2月5日から5年間）（写真30）
- ・ クリニカルパス*小委員会において、実情に合わせたパスの見直しや適用率向上に向けた検討を行い、適用率が目標値（60.0%）を達成（グラフ21）
- ・ 画像診断レポート・病理診断レポートに加え、生理検査レポートの既読管理を開始し、システムを活用した見落とし防止策を強化
- ・ eラーニングを活用した医療安全研修、患者確認の方法や院内危険場所の確認を目的とした院内パトロールを実施（写真31）

グラフ21：クリニカルパス数(件)・適用率(%)

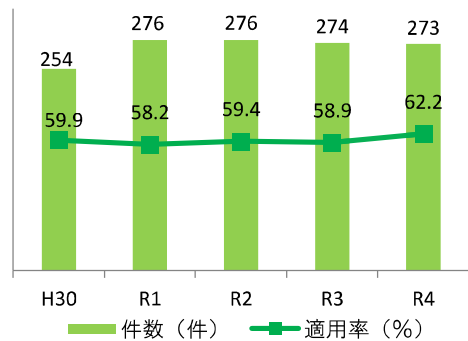


写真31 院内パトロール

<病院機能評価>

- 公益財団法人日本医療機能評価機構が行う病院の評価事業。「患者中心の医療の推進」、「良質な医療の実践」、「理念達成に向けた組織運営」等の領域及び項目について、病院運営の専門家が評価する仕組みとなっている。

<クリニカルパス>

- 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

平日の来院患者数がピークとなる時間帯において、総合案内への看護師の配置を継続し、診療科相談や受診手続きの説明等、総合案内機能の強化に努めるとともに、患者満足度調査を実施し、患者ニーズの把握・検討等を行いました（グラフ22）。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 患者提案箱で投函された意見に対する検討や院内アメニティの向上、接遇向上等を強化するため、患者サービス向上委員会を新設
- ・ 採血採尿受付システム、診療費後払いサービスを導入し、待ち時間等の混雑を緩和（写真32）
- ・ 患者支援センターを開設し、さらなるサービス向上と患者相談体制を整備（写真33）
- ・ 駐車サービス拡充に向けた準備(令和5年4月開始)

グラフ22：患者満足度調査（満足、やや満足の割合）の推移（%）

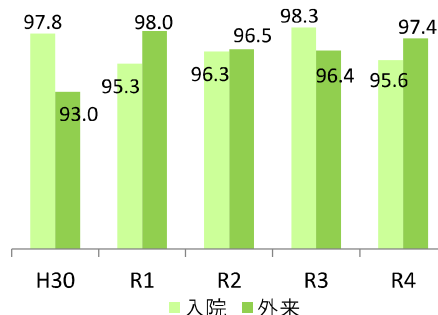


写真32 採血採尿受付システム



写真33 患者支援センター

(3) 市民への情報発信

患者や一般市民を対象とした院内広報誌「そよかぜ」を定期的に発行し、診療科紹介や感染症対応について情報提供を行うとともに、リニューアルしたホームページを活用し、病院の新しい取り組み等について、市民に分かりやすく提供しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止により開催を見送った各種教室に関しては、教室に関する広報紙を発行し、療養サポートに努めました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 「身近な保健医療講座」や「がん市民フォーラム」の開催（写真34）
- ・ 「認定がん相談支援センター」として、がん患者への支援や情報提供を継続



写真34 身近な保健医療講座

神戸市立神戸アイセンター病院

1. 神戸アイセンター病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 標準医療から最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療の提供

眼科専門領域を網羅した診療体制のもと、質の高い医療を提供するとともに、24時間365日体制での眼科救急や、中央市民病院と連携し全身的な症状を有する眼疾患への対応を行いました。

地域医療機関との連携推進を継続し、さらなる眼疾患患者の受入れ体制の強化に取り組みました。

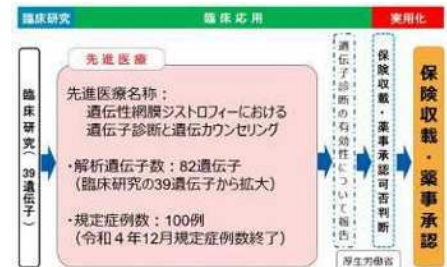


図1：保険収載・薬事承認までのロードマップ

◆令和4年度の主な取り組み

- ・先進医療B※「遺伝性網膜ジストロフィーにおける遺伝子診断と遺伝カウンセリング※」の規定症例数を終了し、保険収載に向けた手続きを開始（図1）
- ・手術室の運用見直しや、硝子体注射枠の効率的な運用により、手術及び硝子体注射の実施件数が過去最多（グラフ23）
- ・地域医療機関からの電話での診察予約を開始（予約取得時間が約25分から約5分に短縮）
- ・緑内障の早期発見・治療を目的とした検診事業の実施、緑内障薬剤師外来の継続、緑内障看護師外来の試行的実施（写真35）

グラフ23：手術件数・硝子体注射件数（件/月）

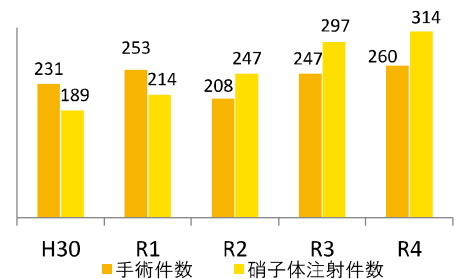


写真35 緑内障看護師外来(イメージ)

(2) 治験・臨床研究を通じた次世代医療の開拓

移植したiPS細胞の定着率向上が期待できる剤型技術を開発し、開院以降3つ目の臨床研究となる網膜色素上皮(RPE)細胞凝集紐移植手術を実施しました（写真36）。

各種規定の整備や研究センター内での部門間の連携強化等に伴い、増加傾向にある治験・臨床研究にも対応できる体制を整備しました。



写真36 凝集紐移植手術の様子

<先進医療B>

「先進医療」とは、効果・安全性などの評価が定まっていない新しい試験的な医療技術のうち、将来的に保険適用の対象にするかどうかを判断するため有効性・安全性の評価を行う医療技術として厚生労働省が指定したもの。このうち未承認、適応外の医薬品、医療機器の使用を伴う医療技術は先進医療Bに分類される。令和3年9月に市民病院機構として初めて承認された。

<遺伝性網膜ジストロフィーにおける遺伝子診断と遺伝カウンセリング>

遺伝子変異が原因と考えられる遺伝性進行性の一連の疾患である遺伝性網膜ジストロフィーでは、夜盲（暗いところでものが見えにくくなる）や視野狭窄（視野が狭くなる）、視力低下が主な症状であり、進行する場合には失明に至ることもある。診断・カウンセリングにより、適切な情報提供を行うことで、就学・就職への準備や家族計画など、QOL向上に役立つことを目的としている。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ i P S細胞網膜シート移植(令和2年)に関し、移植後1年を経て、安全性及び一部で視機能の改善が確認されたことを報告
- ・ 世界初の自家RPEシート移植(平成26年)に関し、移植後7年を経て、追加治療なく視力維持が確認されたことを報告（写真37）
- ・ フランスを代表する研究機関「Institut de la Vision」との日仏合同学術セミナーを神戸で開催（写真38）
- ・ NIH（アメリカ国立衛生研究所）から研究課題が採択され、アメリカのバイラー大学と共同研究を開始
- ・ 文科科研費指定医療機関に認可



写真37 学会での報告の様子



写真38 日仏合同学術セミナー

(3) 視覚障害者支援施設等と連携した患者の日常生活支援

視覚障害者支援を実践する公益社団法人NEXT VISION協力のもと、患者の社会生活への円滑な復帰支援を進めることを目的とし、生活・就労相談、視覚的補助具・補装具の紹介や患者への情報発信等、視覚障害者への支援を継続しました。

患者個人の状態に合った食事の提供等（写真39）、各部門においても患者目線に立った日常生活支援の向上に取り組みました。



写真39 串刺し食と明暗のついた食器による食事

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ オンラインでの遺伝カウンセリングを開始
- ・ 視覚障害者の移動援助ツールに関する実証実験「コード化点字ブロック※」への協力（写真40）
- ・ NEXT VISION職員(全盲)によるロービジョン外来での問診業務※の拡充



写真40 コード化点字ブロックの実証実験

<コード化点字ブロック>

- 通常の点字ブロックの25個ある点に色をつけたもので、これをスマートフォンのアプリで読み込むことで、音声情報を提供するもの

<ロービジョン外来での事前問診業務>

- 神戸市では障害者(超短時間)雇用を進めており、視覚障害者(全盲)をNEXT VISIONにて採用し、アイセンター病院において、視機能が低下し、視覚に障害が残った状態(ロービジョン)の患者への事前問診業務を委託

(4) 診療・臨床研究を担う未来の医療人材育成

各部門において策定した部門計画をもとに部内勉強会を行う等、人材育成に取り組みました。

また、学会やセミナーへの積極的な参加を呼びかけ、学会発表件数が大幅に増加しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 連携大学院制度※を活用した大学院生の採用や国内外の他大学からの医師研修生を受け入れ（国内から3名、フランスから1名、タイから3名）（写真41）
- ・ 医師と視能訓練士による合同カンファレンスを継続
- ・ アイセンター病院の理念を共有するため、全職員を対象としたコンセプト研修を実施（写真42）
- ・ 日本緑内障学会において、当院薬剤師がシンポジストとして参加

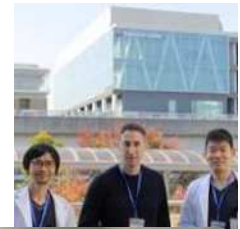


写真41 海外からの医師研修生



写真42 コンセプト研修

2. 共通の役割

(1)安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全ミーティングにおいて、インシデントレポートを検証し、業務手順の見直し等、必要な対策を行いました。多く発生したインシデント事例は、医療安全ニュースやポスターにて周知を行い、再発防止に努めました。

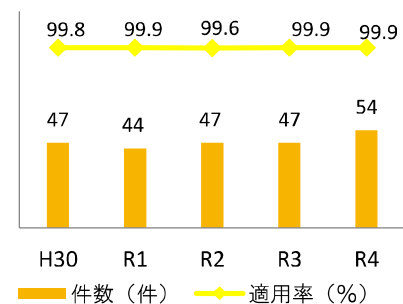


写真43 チームステップス

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 医療安全推進に必要なチームワークを良好にするためのチームステップス研修を初めて開催（写真43）
- ・ クリニカルパス※の定期的な見直しによる改定や新規パスの作成、緊急時等を除き全例で適用（グラフ24）
- ・ インシデントレポートの提出件数が目標件数を達成

グラフ24 クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<連携大学院制度>

- 連携大学院制度は、アイセンター病院医師が大学院の客員教員となり、大学院生に最先端の研究教育や指導を実施する制度。

<クリニカルパス>

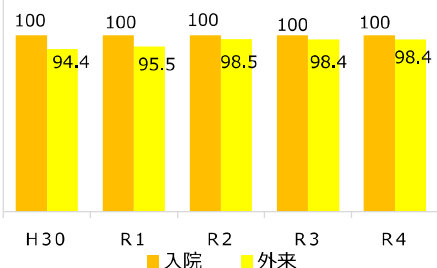
- 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

外来・退院患者へのアンケートを継続し、コアミーティングで検証のうえ、幹部会や患者サービス委員会で全件共有するとともに、きめ細かな改善に取り組みました。

患者満足度調査では、入院・外来ともに引き続き高い満足度を維持し、入院では5年連続100%となり（グラフ25）、嗜好調査でも高い満足度を維持しました。

グラフ25：患者満足度調査（満足、やや満足の割合）の推移（%）



◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 初診外来患者用QA集を新規作成
- ・ 神戸ポートピアホテルと意見交換会（患者サービス面）
- ・ 診察券や支払い精算呼び出しの工夫等

(3) 市民への情報発信

ホームページや患者向け広報誌を通じて、病院の新たな取り組みを分かりやすく提供しました。

開設5周年に伴い、記念式典・記念講演会を開催し、

iPS細胞を用いた臨床研究や今後の展開について情報発信を行いました（写真44）。



写真44 開設5周年記念講演会



写真45 記念動画・記念冊子

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 5年間の取り組みをまとめた冊子・動画を作成(写真45)
- ・ 絵本作家のヨシタケシンスケ氏が神戸アイセンターの「モシクワ係※」に就任
- ・ 医療福祉建築賞受賞
- ・ 世界緑内障週間※の啓発活動参加（ライトアップ&グリーン活動）による定期検診の推奨（写真46）
- ・ 網膜壊死を伴う「ぶどう膜炎」に関する世界初の症例を報告（写真47）
- ・ 国内外からの視察（シアトル市長団、台北駐日経済文化代表処等）
- ・ マスメディアからの取材に対応



写真46 緑内障週間（啓発Tシャツの着用）



写真47 「ぶどう膜炎」に関する記者会見

<世界緑内障週間>

世界緑内障連盟と世界緑内障患者連盟による、緑内障を多くの方知ってもらう取り組み。緑内障は日本での中途失明原因第一位の疾患であり、早期発見に向けて、全国的に啓発を行っている。

<ヨシタケシンスケ氏/モシクワ係>

昭和48年、神奈川県生まれ。日常のさりげないひとコマを独特の角度で切り取ったスケッチ集や、児童書の挿絵、装画、イラストエッセイなど多岐にわたる作品を発表している。「モシクワ係」とは、神戸アイセンターの活動に対して、もしくはこういう伝え方ができるんじゃないか、もしくはこういう絵で表現できるんじゃないか、ということ提案するための役割。



優秀な職員の確保と人材育成

1. 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 職員の能力向上等への取り組み

オンラインでの病院見学会やWEB面接等、柔軟な対応を行い、即戦力として活躍できる人材の確保に努めました（写真48）。

また、各病院での研修を通し、職員の資質や専門性の向上を図るとともに、資格取得支援制度、留学制度等により職員の能力向上等の支援を継続しました（表3）。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 診療報酬請求業務の内製化に向けた検討
- ・ 入職1年目の事務職員を対象としたOJT研修制度の開始（写真49）

(2) 職員が意欲的に働くことのできる人事給与制度の構築

人事評価結果を給与へ反映する等、職員の能力及び業績に基づく人事給与体制の構築に取り組みました。

ワークライフバランスの確保に向け、休暇制度の整備や院内保育所・病児保育室等の運営を継続しました。

働き方改革の推進では、医師をはじめとした医療従事者の負担軽減に関する取り組み等を進めました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 医師活動奨励手当金制度を構築
- ・ ウェルビー※支援室での相談窓口の設置、職場環境や制度利用に関するアンケートを実施（中央）
- ・ タブレット問診の導入、音声記録サービスの試行実施（西）（写真50）
- ・ 医師事務作業補助者の配置を継続（4病院）（写真51）



写真48 新規採用者研修

制度	利用者数
資格取得支援制度	39名
看護職員長期留学制度	4名
看護職員大学院留学制度	1名
短期国内外派遣制度	1名

表3 主な制度の利用者数（R4）



写真49 OJT研修による業務発表会



写真50 タブレット問診



写真51 医師事務作業補助者の活用

<ウェルビー支援室>

- 男女問わず全ての職員がワーク・ライフバランスとwell-being（ウェルビーイング）を実現するための支援と環境整備を推進する目的で開設。
- 「ウェルビーイング」（well-being）とは身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

(3) 人材育成等における地域貢献

新型コロナウイルス感染症の発生状況に配慮しながら、医師、看護師をはじめとした医療系学生を対象に病院見学や実習受入れを行い、教育病院としての役割を果たしました（写真52）。



写真52 病院見学の様子

2. 効率的な業務運営体制の構築

(1) PDCAサイクルが機能する仕組みの構築及び法令遵守(コンプライアンス)の徹底

理事長によるヒアリングを通じた年度計画の達成状況及び課題の把握等、機構内における情報共有を図り、PDCAを意識した取り組みを進めました。また、常任理事会や理事会における月次決算や決算見込、新型コロナウイルス感染症への対応等の報告において、病院ごとの運営状況を把握するとともに、課題が発見された際は迅速な対応を行いました。

コンプライアンス推進本部会議等により法令順守への取り組みを進めたほか、監事監査、会計監査、情報セキュリティ監査等の内部監査を実施しました。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 理事長ヒアリング、院長ヒアリング、本部長ヒアリングの実施
- ・ 全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施

(2) 市民病院間における情報連携体制の強化

令和3年度に設置した「DX推進室」を中心に、法人全体のDX化の推進に取り組みました。また、情報セキュリティ研修や訓練を実施するとともに、**サイバー攻撃対策についても、現状確認や今後の対応方針について検討し、順次、必要な対応を進めました。**

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 機構統一のグループウェアの導入（写真53）
- ・ EDR※の導入（中央/令和5年4月）
- ・ セキュリティポリシーや関連マニュアルの見直し
- ・ 4病院間の患者ID紐づけシステムの構築



写真53
グループウェアの導入

<EDR>

- ▶ 情報システムのネットワーク末端（エンドポイント）の端末に導入し、たとえシステムの内部にウイルスが侵入しても、そのウイルスの不正な動きを早期に検知し、その端末を自動的にネットワークから遮断することで被害を最小限に抑える仕組み。

経営状況について

1. 経営改善の取り組みと経常収支目標の達成

(1) 共通の取り組み

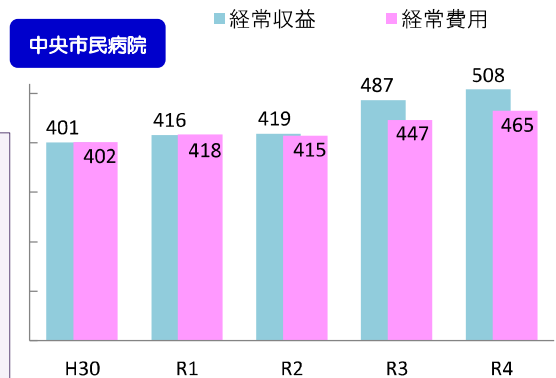
各病院において院長ヒアリングを年に数回実施し、各診療科や部門における現状分析や課題の共有を図りました。また、DPCデータを活用しながら、新たな加算や上位基準の取得を進め収益増加を図りました。

(2) 中央市民病院

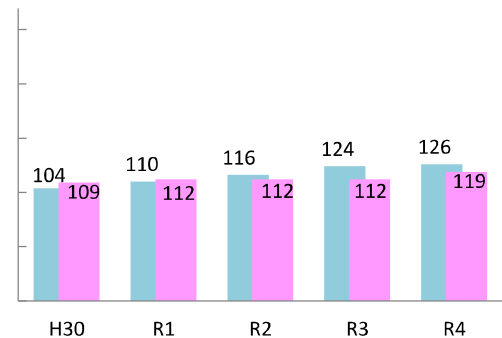
◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 診療報酬改定等への対応（「急性期充実体制加算」、「感染対策向上加算1」の取得等）
- ・ 共同購入の対象を循環器内科分野・医薬品分野にも拡大
- ・ 診療報酬請求業務の外部精度調査実施によるチェックの強化

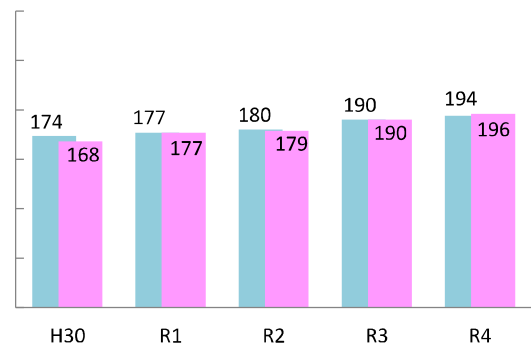
グラフ26：経常収益・経常費用（億円）



西市民病院



西神戸医療センター



(3) 西市民病院

◆令和4年度の主な取り組み

- ・ 診療報酬改定等への対応（「早期離床・リハビリテーション加算」、「報告書管理体制加算」の取得等）
- ・ 診療報酬請求業務の外部精度調査実施によるチェックの強化
- ・ 地域医療機関への定期的な訪問による更なる連携強化

(4) 西神戸医療センター

◆令和4年度の主な取り組み

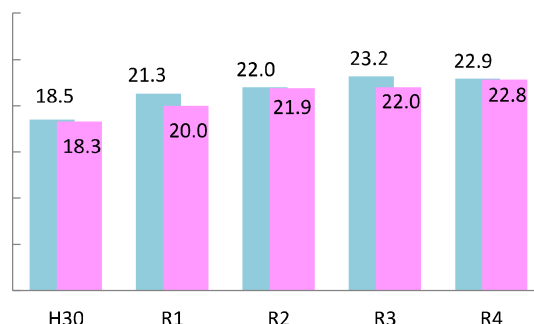
- ・ 診療報酬改定等への対応（「急性期充実体制加算」の取得等）
- ・ 診療報酬請求業務の外部精度調査実施によるチェックの強化
- ・ 査定分析検討会の開催による直近の査定・返戻状況把握及び改善案の策定

(5) 神戸アイセンター病院

◆令和4年度の主な取り組み

- 手術枠の効率利用等で、手術件数及び硝子体注射件数が増加し、過去最多
- 視能訓練士を増員し、検査体制を強化したこともあり、外来患者数が増加し、過去最多
- 年度計画に基づいた部門計画によって、部門ごとに経営改善を実施

神戸アイセンター病院



(6) 法人本部

常任理事会を毎月開催し、病院ごとの経営指標を報告し、情報共有と課題の抽出に取り組みました。また、年度途中で適切な執行管理ができていくかどうか、四半期ごとの決算見込みや予算編成時などの機会を通じて、各病院と法人本部に対して理事長ヒアリング、本部長ヒアリングを実施し、新たな課題への対策や適切な執行管理に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症対策の補助制度を運用する兵庫県・神戸市と連携をしながら、同感染症患者を受入れる3病院で共通する事項は取りまとめて調整するなどし、病院の機能維持と経営の安定化のために必要な財源を確保しました。

2. 経営基盤の強化

(1) 収入の確保及び費用の最適化

収益については常任理事会における月次決算の報告において、新規患者数や救急患者の受入れ状況等の各種指標を確認のうえ、単価の向上や収益の確保につなげました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で目標達成が厳しい指標が多い中、年度当初に策定した経営改善計画に加え、新たな改善項目に取り組み、4病院全体で338百万円の経営改善を図りました。

加えて、医薬品の購入に関しては、機構全体での値引き交渉を行うことで、2,290百万円の薬価差益を獲得するとともに、診療材料の4病院合同価格交渉を行いました。

(2) 計画的な投資の実施と効果の検証

第3期中期計画の投資計画に基づき、院内でのヒアリングを実施しながら経年劣化した医療機器の更新や施設設備の改良等、計画的な投資を行いました（写真54）。



写真54
放射線治療装置
(中央市民病院)

その他業務運営に関する重要事項

1. 西市民病院の建替え整備について

令和3年11月に策定された新西市民病院整備基本構想に基づき、新病院に必要な機能や施設等について検討を行い、令和5年2月に新西市民病院整備基本計画を策定しました。

今後、新病院における運営方法の検討や設計・建設工事に着手し、令和10年度中の開院を目標に準備を進めていきます。

◆令和4年度の主な取り組み

- ・新西市民病院整備基本計画案の公表（11月）
- ・基本計画案に対する市民意見募集の実施
- ・基本計画の策定（2月）
- ・基本計画策定に向けた院内検討（写真55）



写真55 院内での検討

◆新病院の概要

新病院では、市街地西部の中核病院として、「まもる：市民の生命と健康を守る」、「つなぐ：地域医療と地域社会をつなぐ」、「はぐくむ：まちとひとを育む」という考え方のもと、以下の3つのコンセプトを掲げ、急性期医療の中心的役割を担うだけでなく、市街地西部において住みたくなるまちのシンボルとなるような病院を目指します。

- 救急医療、感染症・災害医療の強化
- 地域包括ケアシステムの推進
- まちづくりや地域活性化に寄与

<設置場所>

新長田駅近くの若松公園北西部の一部
(神戸市長田区)



<主な設備概要>

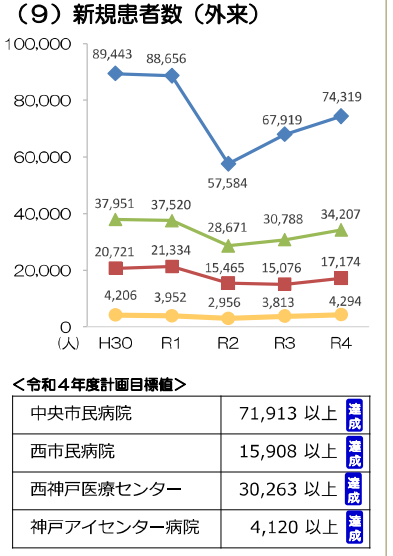
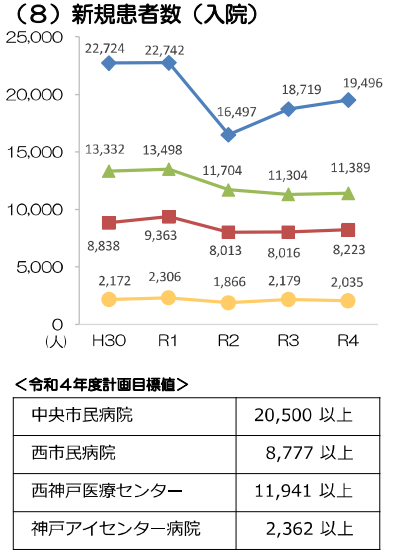
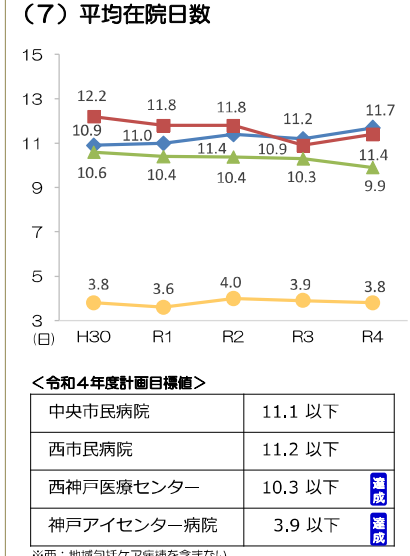
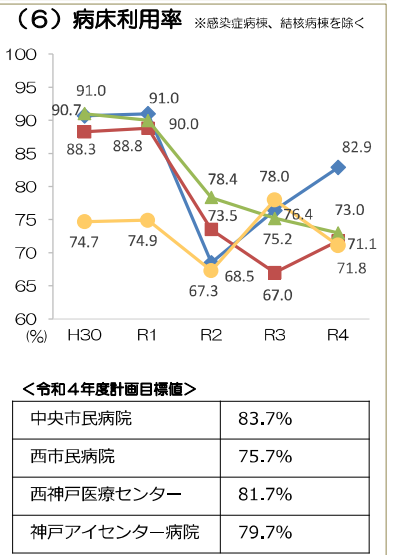
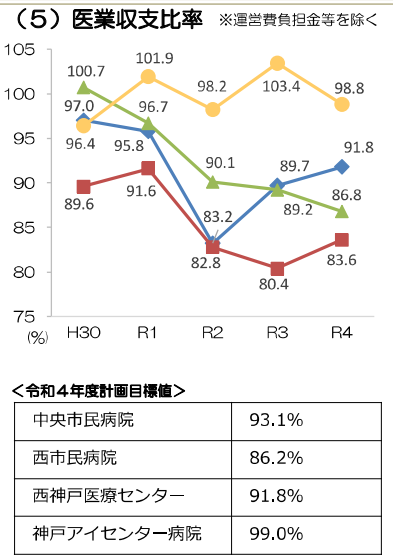
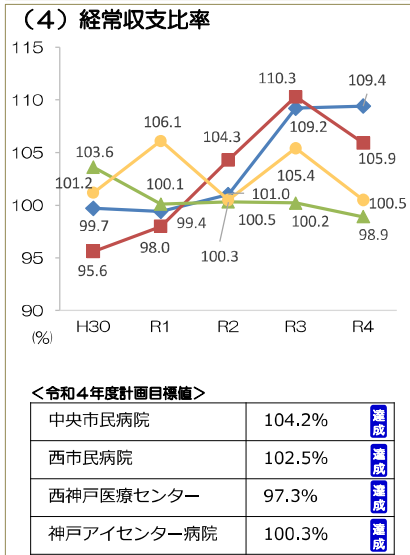
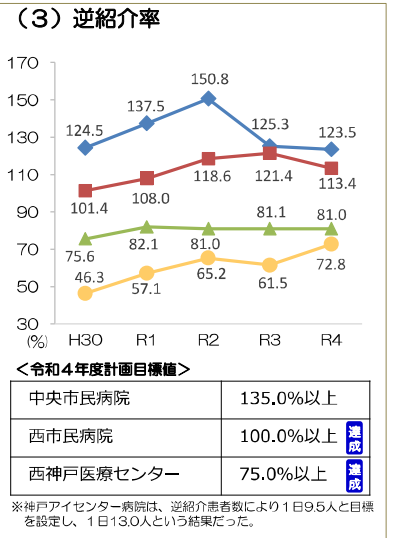
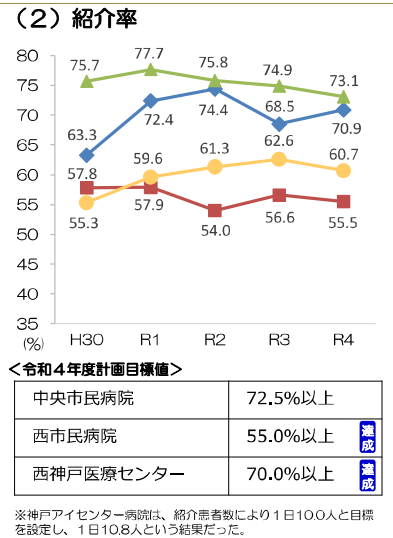
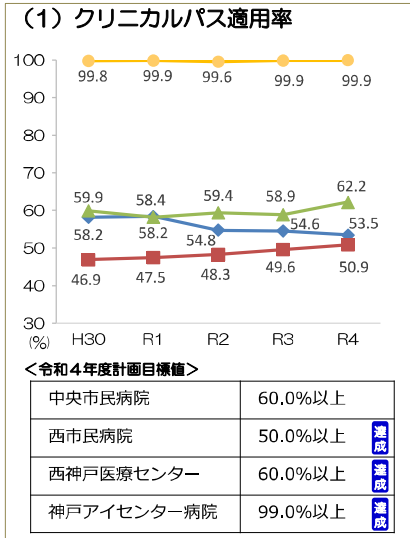
- 病床規模：現病院と同じ358床
- 診療科目：現診療科を維持し、放射線治療科を新設

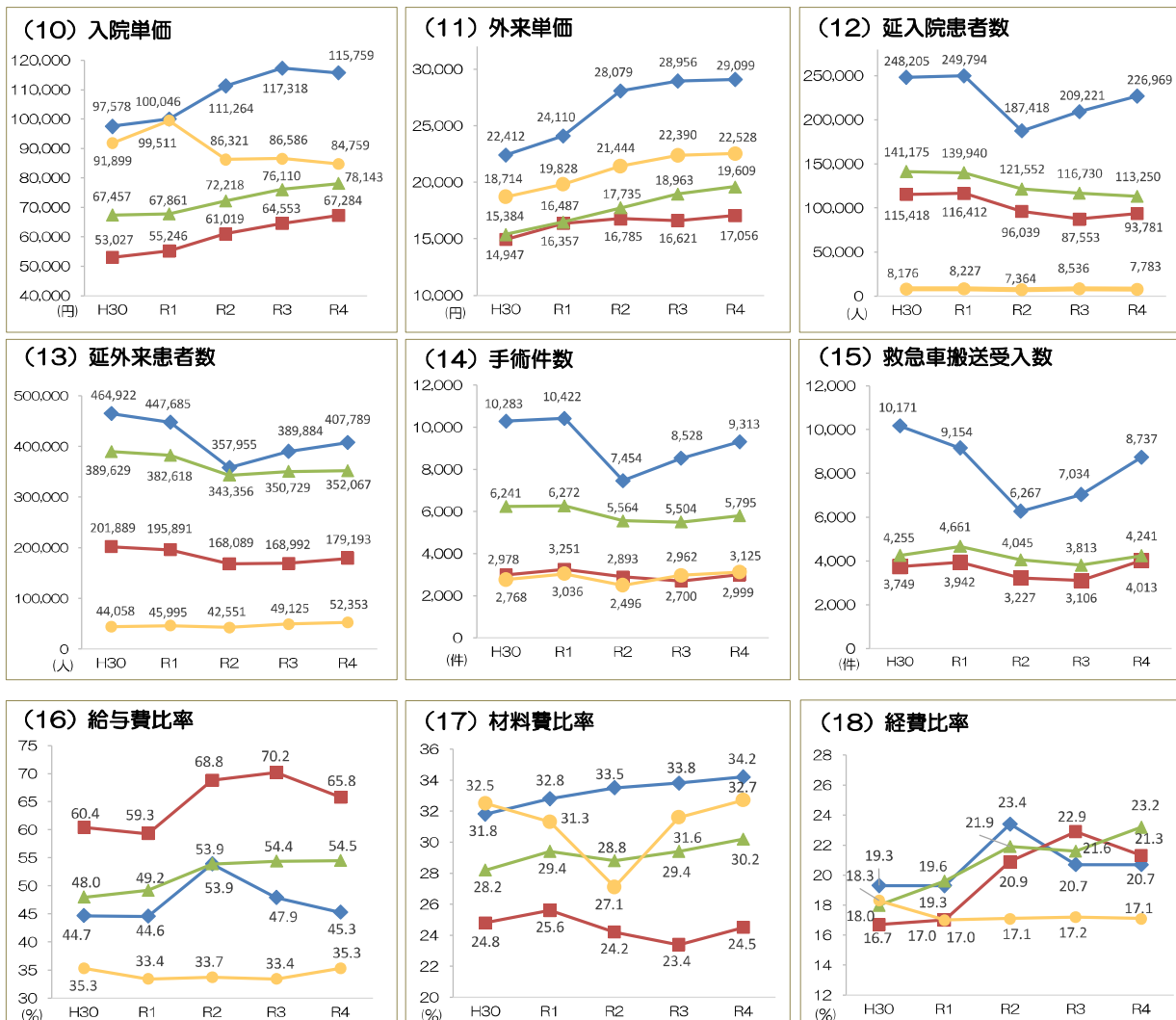


新病院に関するウェブサイト

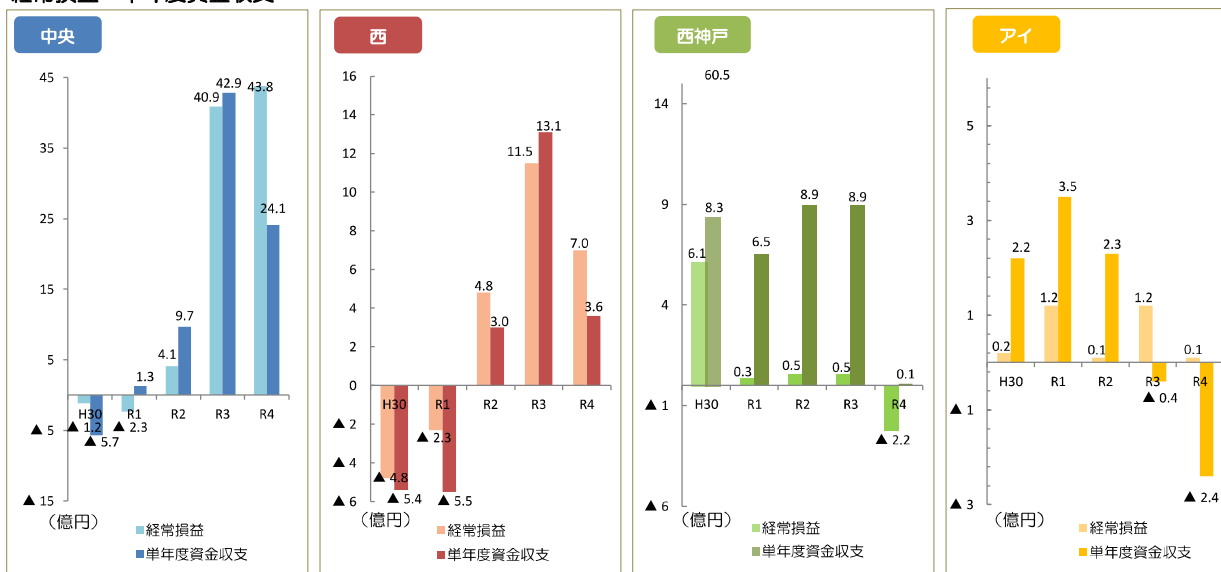
医療機能等指標・主要経営指標の推移

凡例：中央市民病院は ◆ 西市民病院は ■ 西神戸医療センターは ▲ 神戸アイセンター病院は ● で表示





経常損益・単年度資金収支



1. 新型コロナウイルス感染症関連補助金を除いた決算状況の推移

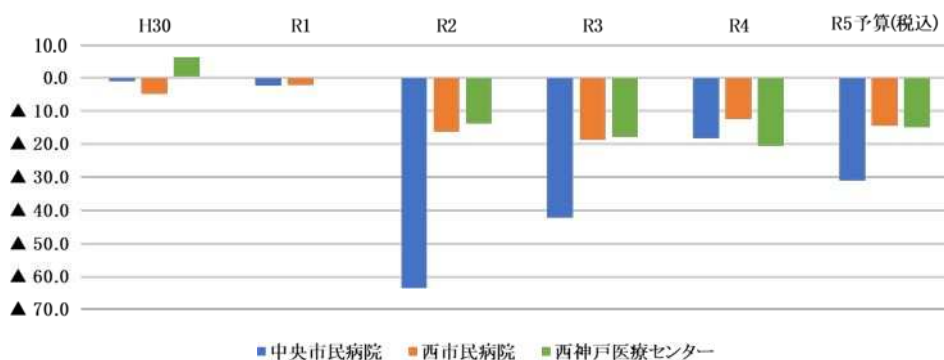
(単位：億円・税抜)

経常損益の推移	H30	R1	R2	R3	R4	R5 予算 (税込)
法人全体 (新型コロナ関連補助の額)	0.3	▲ 3.2 (0.1)	▲ 93.5 (103.0)	▲ 77.6 (131.7)	▲ 51.3 (100.0)	▲ 60.5 (26.8)
中央市民病院	▲ 1.2	▲ 2.3 (0.1)	▲ 63.5 (67.7)	▲ 42.2 (83.1)	▲ 18.3 (62.1)	▲ 31.1 (16.2)
西市民病院	▲ 4.8	▲ 2.3	▲ 16.2 (21.0)	▲ 18.8 (30.3)	▲ 12.6 (19.6)	▲ 14.4 (5.5)
西神戸医療センター	6.1	0.3	▲ 13.8 (14.3)	▲ 17.8 (18.3)	▲ 20.5 (18.3)	▲ 15.0 (5.1)

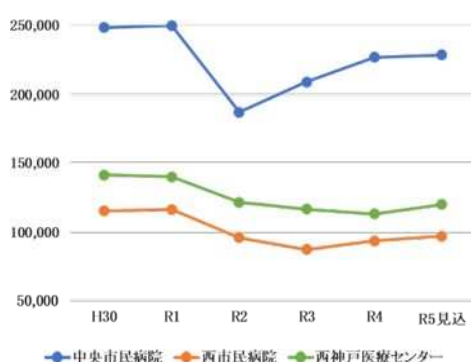
(単位：億円・税抜)

医業収支の推移	H30	R1	R2	R3	R4	R5 予算 (税込)
法人全体 (うち医業収益)	▲21.4 (630.6)	▲ 30.6 (651.1)	▲ 100.2 (581.8)	▲ 82.0 (638.3)	▲ 78.4 (672.4)	▲ 112.1 (693.3)
中央市民病院	▲ 11.2 (361.4)	▲ 16.5 (372.0)	▲ 64.8 (320.9)	▲ 42.4 (371.3)	▲ 35.2 (395.8)	▲ 64.5 (395.9)
西市民病院	▲ 10.7 (92.5)	▲ 9.0 (97.5)	▲ 18.3 (87.9)	▲ 20.9 (85.7)	▲ 18.6 (94.7)	▲ 20.3 (102.2)
西神戸医療センター	1.1 (160.3)	▲5.5 (162.7)	▲ 16.8 (152.8)	▲ 19.4 (160.0)	▲ 24.4 (160.9)	▲ 26.5 (173.8)

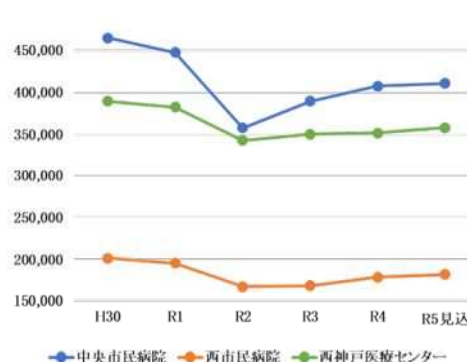
【コロナ関連補助を除いた経常損益の推移】



【延入院患者数の推移】



【延外来患者数の推移】



2. 今後について

令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症対応で発生した減収や対策経費の増に伴う収支悪化に対する国・市による手厚い補助制度（コロナ患者の受入に伴う空床補償や受入に必要な設備・医療資材の購入、感染予防対策経費等）が創設された。

この結果、見かけ上の経営状況は改善したものの、この間、患者の受診動向は大きく変化しており、コロナ禍前の令和元年度と比べた場合では、入院患者数・外来患者数とも大きく減少したままとなっている。（延入院患者数：△14.1%（△72,593 人）、延外来患者数：△7.5%（△80,797 人））

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更以降もこうした患者動向が継続していることに加え、世界情勢を背景としたエネルギー価格の高騰、経済・物価動向に伴う経費等の大幅な増嵩、少子超高齢化の進展に伴う人材獲得競争の激化など、令和 5 年度以降は、一転してこれまでにない非常に厳しい状況が見込まれる。

各市民病院では、引き続き、新型コロナウイルス感染症対応を行いつつ、本来の役割である安全で質の高い医療を提供していくため、さらなる経営改善に取り組むほか、DX の推進をはじめとした患者サービス・医療機能の向上に努める。